

**セクション1: 化学物質特定情報および会社情報****製品特定情報**

製品形態 : 混合物  
製品名 : 真のクールスヌープ  
製品グループ : ブレンド

**該当物質または混合物の関連特定用途および使用禁止用途**

物質／混合物の用途 : 液体漏れ検出器は外部表面のみに使用する。最適な動作温度は-65°F～200°F (-54°C～93°C)である。業務用のみ。

使用上の制限 : 追加情報なし

**安全データシートの作成者に関する詳細****会社、メーカー**

株式会社 ヴィーガ・マニュファクチャリング  
29495 F.A. Lennon Drive  
オハイオ州ソロン44139  
440-519-4000

[www.swagelok.com](http://www.swagelok.com)

**緊急時の連絡先電話番号**

緊急連絡先電話番号 : Infotrac: 1-800-535-5053

**セクション2: 危険有害性の要約****物質または混合物の分類****GHS-JP分類**

物理的危険性 : 未分類の引火性液体  
健康に対する危険有害性 : 急性毒性(経口)、区分4  
: 皮膚腐食性／刺激性、区分2  
: 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性、区分2  
: 特定標的臓器毒性(単回暴露)、区分1  
: 特定標的臓器毒性 — 単回暴露、区分3、昏睡  
: 特定標的臓器毒性 — 単回暴露、区分3、気道刺激性  
: 特定標的臓器毒性(反復暴露)区分2

**ラベル要素**

有害性に関する絵表示(GHS-JP) :



注意喚起語(GHS-JP) : 危険  
危険有害性情報(GHS-JP) : 飲み込むと有害(H302)。  
皮膚刺激(H315)。  
強い眼刺激(H319)  
呼吸器への刺激のおそれ(H335)  
眠気またはめまいのおそれ(H336)。  
臓器(腎臓系)に障害を引き起こす(H370)。  
長期にわたるまたは反復暴露による臓器障害(腎臓、肝臓、神経系および心臓障害)のおそれ(H373)。  
予防の注意書き : 蒸気、ミスト、噴霧を吸入しないこと(P260)。  
取扱い後は手、前腕部、顔をよく洗うこと。(P264)。  
本製品の使用時には飲食または喫煙をしないこと。(P270)。  
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)。  
保護手袋、保護衣、眼球保護具を着用すること。(P280)。  
対応の注意書き : 飲み込んだ場合: 気分が悪い時は、毒物センターまたは医師に連絡すること。  
(P301+P312)。  
皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。(P302+P352)。  
吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

# 真のクールスヌープ

## 安全データシート

JIS Z 7253およびJIS Z 7252に準拠

(P304+P340)

眼に入った場合：水で数分間、注意深く洗浄すること。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

(P305+P351+P338)。

暴露した場合や暴露が懸念される場合：毒物センターまたは医師に連絡すること。(P308+P311)。

気分が悪い時は、毒物センターまたは医師に連絡すること。(P312)

特別な処置が必要(このSDSのセクション4を参照)(P321)。

口をすすぐこと。(P330)。

皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。(P332+P313)

眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。(P337+P313)

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。(P362+P364)。

保管の注意書き : 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233)。施錠して保管すること。(P405)。

廃棄の注意書き : 国際／国／都道府県／市町村の規則に従って、内容物／容器を廃棄すること(P501)

### その他の危険有害性

分類につながらないその他の危険有害性 : 既存の眼疾患、皮膚疾患、または呼吸器系疾患がある場合は、暴露によりこれらの疾患が悪化するおそれがある。

## セクション3：組成／成分情報

物質または混合物の識別 : 混合物

名称	別名	濃度(%)	化学式	公報リストの参照番号		CAS番号
				CSCL番号	ISHL番号	
エチレングリコール	1,2-ジヒドロキシエタン /Ethane-1,2-ジオール/1,2- エタンジオール/エタンジオール/ グリコール/グリコール/モノ エチレングリコール	< 60	C2H6O2	(2)-230	(2)-230	107-21-1
D-グルコピラノース、オリゴマー、デシルオクチルグリコシド	エーテル、D-グルコース、デシルオクチル、オリゴマー/D-グルコース、デシルオクチルエーテル、オリゴマー/D-グルコピラノース、オリゴマー、デシルオクチルグリコシド/グルコポン220界面活性剤/D-グルコピラノース、オリゴマー、C8-10グリコシド/d-グルコピラノース、オリゴマー、C8-10グリコシド/カプリル/カプリルグリコシド/デシル、オクチル-ポリ-D-グルコシド/CAPRYLYL/CAPRYL GLUCOSIDE/アルキルポリグリコシド/カプリル/カプリルオリゴグリコシド/D-グルコピラノースオリゴマー	< 1	特記なし	(5)-3641	(5)-3641	68515-73-1
D-グルコピラノース、オリゴマー、C10-16-alkylグリコシド	D-グルコピラノース、オリゴマー、C10-16(偶数)アルキルグリコシド/C10-16アルキルa(+b) D-モノおよびオリゴグリコピラノシド/C10-16アルキル-ポリ-D-グルコシド/ポリ(ラウリルグリコシド)-7/アルキルポリグリコシド、APG C10-16/COCO-GLUCOSIDE/ココ-グリコシド	< 1	特記なし	(5)-3641	11-(4)-903	110615-47-9

# 真のクールスヌープ

## 安全データシート

JIS Z 7253およびJIS Z 7252に準拠

### セクション4: 応急措置

#### 応急措置の説明

- 一般的な応急措置 : 意識のない場合は、口から何も与えてはならない。気分が悪い場合は、医師の診察を受ける(可能な場合は製品のラベルを提示する)。
- 吸入した場合の応急措置 : 症状が発生した場合: 屋外に退避し、暴露の疑いのある区域の換気を行う。空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。呼吸困難が続く場合は、医師の手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合の応急措置 : 直ちに汚染された衣類を脱ぐこと。汚染された領域を直ちに水で15分以上洗い流す。刺激が生じた場合や、刺激が続く場合は、医師の診察、手当てを受ける。
- 眼に入った場合の応急措置 : 直ちに水で15分間以上洗う。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続ける。刺激が生じた場合や、刺激が続く場合は、医師の診察、手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合の応急措置 : 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。医師による手当てを受けること。
- 応急処置をする者の保護と対策 : 適切な個人用保護具(PPE)を使用する。

#### 最も重大な症状および影響(急性および遅延性)

- 症状/影響 : 呼吸器への刺激のおそれがある。眠気およびめまいのおそれ。臓器(腎臓)に障害を引き起こす。皮膚刺激。強い眼刺激。長期にわたるまたは反復暴露による臓器障害(腎臓、肝臓、神経系および心臓の障害)のおそれ飲み込むと有害。
- 吸入した場合の症状/影響 : 濃度が高い場合、めまい、嘔吐、無感覚、眠気、頭痛、麻酔に類似する症状などの中枢神経系の抑制を引き起こすおそれがある。気道およびその他の粘膜の刺激作用。
- 皮膚への接触後の症状/影響 : 赤み、痛み、はれ、かゆみ、炎症、乾燥、皮膚炎。
- 眼に入った場合の症状/影響 : 接触により、結膜の赤み、膨張を伴う重度の炎症を引き起こすおそれがある。
- 飲み込んだ場合の症状/影響 : 中枢神経系のうつ病、頭痛、めまい、眠気、協調運動の喪失。腎臓が損傷する可能性があります。筋肉麻痺、呼吸不全、肺水腫、不規則な心拍、血液中のカリウム欠乏など、心血管系および呼吸器系に影響を及ぼすおそれがある。本物質は経口すると有害であり、大量に経口すると健康への悪影響や死亡を引き起こす可能性がある。
- 慢性症状 : 生殖能または胎児に悪影響のおそれがある。長期にわたる、または反復暴露による臓器障害(腎臓、肝臓、神経系、心臓の障害)のおそれ

#### 医師による即時の手当ておよび特別な治療の適応となる症状

ばく露した場合やばく露が懸念される場合には、医師の診察、手当てを受けること。医師の診察が必要な場合は、製品の容器やラベルを持参すること。

### セクション5: 火災時の措置

#### 消火剤

- 適切な消火媒体 : 水噴霧、水霧、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)、耐アルコール性泡消火剤、粉末消火剤。
- 不適切な消火媒体 : 強力な放水を使用してはならない。強力な放水の使用により火災が拡大するおそれがある。

#### 物質または混合物に由来する特別な危険有害性

- 火災危険性 : 可燃性ではないが、高温では燃焼するおそれがある。
- 爆発危険性 : 本製品には爆発性はない。
- 反応性 : 通常の条件下では有害な反応は発生しない。

#### 消火時の注意事項

- 火災に関する予防措置 : 化学物質による火災の消火は慎重に行う。
- 消火時の指示 : 露出した容器の冷却には水噴霧または水霧を使用する。
- 消火時の防護 : 呼吸用保護具を含む適切な保護具を着用していない者は、火災発生エリアに立ち入ってはならない。
- 有害燃焼生成物 : 炭素酸化物(CO、CO<sub>2</sub>)。鼻をつく刺激的な煙。

### セクション6: 漏出時の措置

#### 人体に対する注意事項、保護具および緊急措置

- 一般的な措置 : 蒸気、ミスト、噴霧を吸引しないこと。眼、皮膚、および衣服に接触しないようにすること。
- 二次災害の防止策 : 当該領域の換気を行う。裸火、火花から遠ざけること。禁煙。着火源を除去する。

# 真のクールスヌープ

## 安全データシート

JIS Z 7253およびJIS Z 7252に準拠

### 緊急救援隊以外の人員

- 保護具 : 適切な個人用保護具(PPE)を使用する。  
緊急措置 : 不必要な人員を退避させる。

### 緊急対応にあたる人員

- 保護具 : 浄化担当スタッフに適切な保護具を着用させる。  
緊急措置 : 現場に到着したら、まず危険なものがないことを確認し、自分自身や人々の身の安全やその付近の安全を図り、状況が許し次第、訓練された人の支援を求める。当該領域の換気を行う。

### 環境に関する注意事項

下水および公共用水への流入を防止する。

### 封じ込めおよび浄化の方法・資材

- 封じ込め : 漏出した物質を防壁または吸収材で封じ込め、移動および下水や水路への流入を防止する。即時的な予防措置として、全方向の流出あるいは漏出エリアを隔離する。当該領域の換気を行う。  
浄化方法 : 漏出した物質を迅速に除去し、回収した物質は安全に廃棄する。漏出した物質を廃棄に適した容器に移す。漏出の発生後に、監督官庁に通報する。不活性物質を用いて漏出した物質の吸収や封じ込めを行う。

### 他のセクションの参照事項

暴露防止と保護措置についてはセクション8を、廃棄上の注意についてはセクション13を参照すること

## セクション7: 取扱いおよび保管上の注意

### 安全な取扱いに関する注意事項

- 加工時の追加的有害危険性 : ミストの発生を避ける。  
技術的対策 : 労働安全衛生手順に従って取り扱うこと。  
安全な取扱いに関する注意事項 : 飲食や喫煙の前、および作業場を離れる際には、手やその他の露出した部位を刺激性の少ない石鹼と水で洗浄する。蒸気、ミスト、噴霧を吸引しないこと。屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。眼、皮膚、衣類との接触は避けること。空の容器はまだ危険を引き起こすおそれがあるため慎重に取り扱うこと。  
混触危険物質や混合物の取扱いを防止 : 作業中に飲食や喫煙をしない、強酸、強塩基、強oxidizers.Do。  
衛生対策 : 労働安全衛生手順に従って取り扱うこと。  
局所および一般的な換気 : 十分な換気を確保する。

### 安全な保管の条件(混触危険性を含む)

- 技術的対策 : 適用される規則を遵守する。  
保管条件 : 使用していない場合は、容器を閉めておく。乾燥した涼しい場所に保管すること。直射日光、極端な高温または低温、混触危険物質を避けて維持/保管すること。安全な場所に施錠して保管すること。

混触危険物質 : 強酸、強塩基、強酸化剤。

梱包/容器に使用されている材料 : 元の容器で保管すること。

### 特定の最終用途

液体漏れ検出器は外部表面のみに使用する。最適な動作温度は-65°F~200°F(-54°C~93°C)である。業務用のみ。

## セクション8: ばく露防止および保護措置

### 管理基準

エチレングリコール(107-21-1)		
米国 ACGIH	ACGIH OEL TWA [ppm]	25 ppm(蒸気分画)
米国 ACGIH	ACGIH OEL STEL	10 mg/m3(吸入性粒子状物質、エアゾールのみ)
米国 ACGIH	ACGIH OEL STEL [ppm]	50 ppm(蒸気分画)
米国 ACGIH	ACGIH化学物質カテゴリ	ヒト発がん性物質としては分類不能

# 真のクールスヌープ

## 安全データシート

JIS Z 7253およびJIS Z 7252に準拠

### 生物学的限界

追加情報なし

### 暴露防止

適切な工学的管理

: 暴露の危険性のある区域のすぐ近くに、緊急用の洗眼器および安全シャワーを設置しなければならない。特に狭いエリアでは、十分な換気を確保すること。国/地方公共団体の規則を確実に遵守する。有害ガスが放出される恐れがある場合には、ガス検出器を使用する。

個人用保護具

: 手袋。保護衣。保護ゴーグルまたは保護眼鏡 換気が不十分な場合: 呼吸用保護具を着用する。防護ゴーグル



保護衣の素材

: 耐化学物質性の素材および繊維

手の保護

: 保護手袋を着用すること。

眼および顔面の保護

: 化学薬品対応の安全ゴーグルまたはサイドシールドを備えた保護めがね。化学薬品対応の安全ゴーグル。

皮膚および身体の保護

: 適切な保護衣を着用すること。

呼吸器系の保護

: 暴露限界値を超えるか、呼吸器への刺激が発生した場合は、認証済みの呼吸用保護具を着用する必要がある。換気が不十分な場合や、酸素不足、または暴露レベルが不明な場合は、認証済みの呼吸用保護具を着用すること。

熱危険性の防護

: 追加情報なし

その他の情報

: 本製品の使用時には飲食または喫煙をしないこと。

## セクション9: 物理的および化学的性質

### 基本的な物理的・化学的性質に関する情報

物理的状态

: 液体

外観

: 無色

色

: 無色

臭い

: 中性

臭いの閾値

: データなし

pH

: 6~7.5

蒸発速度

: データなし

融点

: データなし

凝固点

: データなし

沸点

: 197°C

引火点

: > 110°C クローズドカップ法

自然発火温度

: 398~412°C (エチレングリコール)

分解温度

: データなし

燃焼性

: データなし

蒸気圧

: データなし

相対蒸気密度 (@ 20°C)

: データなし

密度

: データなし

相対密度

: 1.1 g/mL

溶解度

: 水溶性。

分配係数: N-オクタノール/水

: データなし

粘度

: データなし

動粘度

: データなし

爆発限界

: データなし

粒子特性

: データなし

### その他の情報

揮発性有機化合物含量

: < 1%

# 真のクールスヌープ

## 安全データシート

JIS Z 7253およびJIS Z 7252に準拠

### セクション10: 安定性および反応性

#### 反応性

通常の条件下では有害な反応は発生しない。

#### 化学的安定性

推奨される取扱いおよび保管条件下にある場合は安定(セクション7を参照)。

#### 有害反応の可能性

有害な重合は発生しない。

#### 避けるべき条件

直射日光、極端な高温または低温、混触危険物質

#### 混触危険物質

強酸、強塩基、強酸化剤

#### 危険有害な分解生成物

通常の使用条件下では予想されない。

### セクション11: 有害性情報

#### 毒性影響に関する情報

考えられる暴露経路 : 経皮、眼への接触、吸入、経口  
潜在的なヒトの健康に対する有害作用および症状 : 飲み込むと有害、吸い込むと有害

急性毒性(経口) : 飲み込むと有害。  
急性毒性(経皮) : 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。  
急性毒性(吸入) : 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。

真のクールスヌープ	
ATE JP(経口)	833,333 mg/kg体重
D-グルコピラノース、オリゴマー、デシルオクチルグリコシド(68515-73-1)	
LD50 経口 ラット	2000 mg/kg超
LD50 経皮 ウサギ	> 2000 mg/kg
D-グルコピラノース、オリゴマー、C10-16-alkylグリコシド(110615-47-9)	
LD50 経皮 ウサギ	> 2000 mg/kg(出典: ECHA_API)
エチレングリコール(107-21-1)	
LD50 経皮 ラット	10600 mg/kg(出典: JAPAN_GHS)
LC50 吸入 ラット	> 2.5 mg/l(暴露時間: 6時間)
ATE JP(経口)	500 mg/kg体重

皮膚腐食性/刺激性 : 皮膚刺激。  
眼に対する重篤な損傷性/刺激性 : 強い眼刺激。  
急性  
呼吸器感作性 : 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。  
皮膚感作性 : 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。  
生殖細胞変異原性 : 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。  
発がん性 : 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。  
生殖毒性 : 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。  
特定標的臓器毒性(STOT) : 臓器(腎臓)に障害を引き起こす。  
- 単回暴露 : 眠気またはめまいのおそれがある  
呼吸器への刺激のおそれがある。  
特定標的臓器毒性(STOT) : 長期にわたる、または反復暴露による臓器障害(腎臓、肝臓、神経系、心臓の障害)のおそれ  
- 反復暴露  
吸引性呼吸器有害性 : 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。  
その他の情報 : 追加情報なし

# 真のクールスヌープ

## 安全データシート

JIS Z 7253およびJIS Z 7252に準拠

### セクション12: 環境影響情報

#### 毒性

水生環境有害性、短期(急性) : 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。  
水生環境有害性、長期(慢性) : 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。

D-グルコピラノース、オリゴマー、デシルオクチルグリコシド(68515-73-1)	
LC50 魚類 1	100.81 mg/l
EC50 - 甲殻類[1]	31.62mg/L
ErC50 藻類	27.22 mg/L
D-グルコピラノース、オリゴマー、C10-16-alkylグリコシド(110615-47-9)	
LC50 魚類 1	2.95 mg/l(暴露時間96時間 - 種類: プラキダニオ リリオ [半静止])
エチレングリコール(107-21-1)	
LC50 魚類 1	41000 mg/l(暴露時間: 96時間 - 種類: Oncorhynchus mykiss 出典: IUCLID)
EC50 - 甲殻類[1]	46300 mg/l(暴露時間: 48時間 - 種類: オオミジンコ)
LC50 魚類 2	14 ~ 18 ml/l(暴露時間: 96 時間 - 種類: ミクス菌 [静止] 出典: EPA)
NOEC 慢性甲殻類(Chronic Crustacea)	4.2mg/L

#### 残留性および分解性

真のクールスヌープ	
残留性および分解性	立証されていない。

#### 生物蓄積性の可能性

真のクールスヌープ	
生物蓄積性の可能性	立証されていない。
エチレングリコール(107-21-1)	
分配係数 n-オクタノール/水(Log Pow)	-1,36

#### 土壌中の移動性

追加情報なし

#### その他の有害な影響

オゾン層に有害 : 未分類。利用可能な試験データに基づくと、分類基準を満たしていない。  
その他の情報 : 環境への放出を避けること。

### セクション13: 廃棄上の注意

#### 廃棄物処理方法

地域廃棄物規制 : 正式な規制に従い廃棄しなければならない。  
廃棄物処理方法 : 可能であれば、材料はリサイクルする必要があります。  
下水への廃棄に関する勧告 : 下水へ廃棄物を流さないこと。排水設備に流さないこと。  
推奨される廃棄方法 : 内容物/容器は国際/国/都道府県/市区町村の規則に従って廃棄すること。  
その他の情報 : 空にした容器が有害である可能性あり。すべての使用上の注意に従うこと。  
生態系 - 廃棄物質 : 環境への放出を避けること。

### セクション14: 輸送上の注意

この輸送上の説明は、SDSの起草時点で想定された内容に従って記述されており、基準となる変数が、SDSが発行された時点で既知であった、あるいは、未知であったため、変動することがある。

#### UNRTDGに準拠

輸送規制なし

#### IATAに準拠

輸送規制なし

#### IMDG/IMOに準拠

輸送規制なし

# 真のクールスヌープ

## 安全データシート

JIS Z 7253およびJIS Z 7252に準拠

### MARPOL条約の付属書類IIおよびIBC Codeに従うばら積み輸送

該当なし

#### その他の情報

その他の情報 : 補足情報なし

## セクション15: 適用法令

### 適用法令

#### D-グルコピラノース、オリゴマー、デシルオクチルグリコシド(68515-73-1)

##### 規制参考情報

米国有害物質規制法(TSCA)インベントリーに記載 - ステータス: アクティブ  
カナダDSL(国内物質リスト)に記載  
EU NLP(No Longer Polymers)インベントリーに記載  
オーストラリア工業化学品導入スキーム(AICISインベントリー)の紹介  
PICCS(フィリピン化学品・化学物質インベントリー)に記載  
日本のENCS(既存および新規化学物質)インベントリーに記載  
KECL/KECI(韓国既存化学物質インベントリー)に記載  
IECSC(中国で製造または輸入された既存化学物質の目録)に記載  
NZIoC(ニュージーランド化学物質インベントリー)に記載  
日本のISHL(労働安全衛生法)に記載  
TCSI(台湾化学物質インベントリー)に記載  
NCI(ベトナム - 国家化学物質インベントリー)に記載  
タイ既存化学物質インベントリー(DIW)に記載

#### D-グルコピラノース、オリゴマー、C10-16-alkylグリコシド(110615-47-9)

##### 規制参考情報

米国有害物質規制法(TSCA)インベントリーに記載 - ステータス: アクティブ  
カナダDSL(国内物質リスト)に記載  
オーストラリア工業化学品導入スキーム(AICISインベントリー)の紹介  
PICCS(フィリピン化学品・化学物質インベントリー)に記載  
日本のENCS(既存および新規化学物質)インベントリーに記載  
KECL/KECI(韓国既存化学物質インベントリー)に記載  
IECSC(中国で製造または輸入された既存化学物質の目録)に記載  
NZIoC(ニュージーランド化学物質インベントリー)に記載  
日本のISHL(労働安全衛生法)に記載  
TCSI(台湾化学物質インベントリー)に記載  
NCI(ベトナム - 国家化学物質インベントリー)に記載  
タイ既存化学物質インベントリー(DIW)に記載

#### エチレングリコール(107-21-1)

##### 化学物質の審査および製造等の規制に関する法律

優先評価化学物質(同法第2条第5項)

##### 労働安全衛生法

ラベルに名称が記載されている有害物質(同法第57条第1項、施行令第18条第1項、第2項、付表No.9)  
届出対象物質(同法第57条の2、施行令第18条の2第1項第2号、付表第9号)  
エチレングリコール(政令番号:75)()

##### 消防法

第4類 - 引火性液体 - 第3石油類 - 可溶性(法令第2条第7項、付表1、第4類)

##### 大気汚染防止法

揮発性有機化合物(同法第2条第4項)(都道府県への環境省公式通知)

##### 海洋汚染等および海上災害の防止に関する法律

有毒液体物質 - 区分Y(同法第3(3)項、施行令、第1条第2項、付表No.1項目2)  
有毒液体物質 - 区分Z(同法第3(3)項、施行令第1条第2項、付表第1号第3号)  
有害液体物質 - 区分Y(環境省告示)に相当  
有害液体物質 - 区分Z(環境省告示)に相当



# 真のクールスヌープ

## 安全データシート

JIS Z 7253およびJIS Z 7252に準拠

外国為替および外国貿易法	項目2の承認(輸入貿易管理令、第4条第1項、項目2) 輸出貿易管理令別表第1の第16項 輸出許可(輸出貿易管理令、別表第2)
特定有害廃棄物等の輸出入等の規制に関する法律(バーゼル条約)	特定有害廃棄物(同法第2条第1項第1号(イ)、2018年6月18日省令第12号)
<b>規制参考情報</b> 米国有害物質規制法(TSCA)インベントリーに収載 - ステータス: アクティブ カナダDSL(国内物質リスト)に記載 EECインベントリー-EINECS(欧州既存商業化学物質インベントリー)に記載 カナダIDL(成分開示リスト)に記載 米国SARA第313条の報告要件に従う EPA有害大気汚染物質(HAPS)に記載 オーストラリア工業化学品導入スキーム(AICISインベントリー)の紹介 PICCS(フィリピン化学品・化学物質インベントリー)に記載 日本のENCS(既存および新規化学物質)インベントリーに記載 KECL/KECI(韓国既存化学物質インベントリー)に記載 IECSC(中国で製造または輸入された既存化学物質の目録)に記載 NZIoC(ニュージーランド化学物質インベントリー)に記載 日本のISHL(労働安全衛生法)に記載 INSQ(メキシコ国家化学物質インベントリー)に記載 TCSI(台湾化学物質インベントリー)に記載 NCI(ベトナム - 国家化学物質インベントリー)に記載 タイ既存化学物質インベントリー(DIW)に記載	

## セクション16: その他の情報

作成日または最新改訂日 : 2024/05/06  
参考文献 : 本書は日本の危険有害性周知基準である安全データシート(SDS)の要件JIS Z 7253およびJIS Z 7252に準じて作成された。

### データソース略語の用語集

ATSDR: 有害物質・疾病登録庁(米国保健福祉省)  
AU\_WES: オーストラリアWES  
CHEMVIEW: ChemView(米国環境保護庁)  
EC\_RAR: 欧州委員会更新評価報告書  
EC\_SCOEL: 欧州委員会職業暴露限界に関する科学委員会  
ECECOC: 欧州化学物質生態毒性・毒性センター  
ECHA\_API: 欧州化学品庁API  
ECHA\_RAC: ECHAリスク評価委員会  
EFSA: 欧州食品安全機関  
EPA: 米国環境保護庁  
EPA\_AEGL: 急性暴露ガイドラインレベル(米国環境保護庁)  
EPA\_FIFRA: 連邦殺虫剤・殺菌剤・殺鼠剤法再登録資格決定(米国環境保護庁)  
EPA\_HPVS: 大量生産化学物質(米国環境保護庁)  
EPA\_TRED: 許容度再評価の適格性判断に関するリスク評価(米国環境保護庁)  
EU\_CLH: 欧州連合調和分類およびラベリング提案  
EU\_RAR: 欧州連合リスク評価書  
FOOD\_JOURN: Food Research Journal(1956年)  
IARC: 国際がん研究機関  
IDLH: 米国国立労働安全衛生研究所の急性の毒性限度(「生命または健康に対する差し迫った危険」の値プロファイル)  
IUCLID: 国際統一化学情報データベース  
JAPAN\_GHS: 分類データに関する日本のGHS基準  
JP\_J-CHECK: 日本 J-Check  
KR\_NIER: 韓国国立環境科学院の評価  
NICNAS: オーストラリア国家工業化学品届出審査機構  
NIOSH: 米国労働安全衛生研究所(米国保健福祉省)  
NLM\_CIP: 米国国立医学図書館ChemIDplusデータベース  
NLM\_HSDB: 米国国立医学図書館有害物質データバンク  
NLM\_PUBMED: 米国国立医学図書館PubMedデータベース  
NTP: 国家毒性プログラム  
NZ\_CCID: ニュージーランド化学物質分類および情報データベース  
OECD\_EHSP: 環境・健康・安全に関する出版物(経済協力開発機構)  
OECD\_SIDS: スクリーニング情報データセット(経済協力開発機構)  
WHO: 世界保健機関

本情報は現有知識をもとにしており、健康、安全、環境面での要件のみを目的に製品の特徴を記載したものである。よって、製品の個別の特性を保証すると解釈されることがあってはならない。

日本 GHS SDS